

日本・中国のファッションデザイン学術交流にみるユニバーサルファッションの
意義と役割に関する調査研究

LOOKING AT FASHION DESIGN ACADEMIC EXCHANGES IN JAPAN AND CHINA
: RESEARCH ON THE SIGNIFICANCE AND ROLE OF UNIVERSAL FASHION

見寺 貞子	芸術工学部ファッションデザイン学科	教授
野口 正孝	芸術工学部ファッションデザイン学科	教授
瀬能 徹	芸術工学部ファッションデザイン学科	教授
古賀 俊策	名誉教授	
ばんばまさえ	芸術工学部ファッションデザイン学科	教授
吉田 尚美	芸術工学部ファッションデザイン学科	准教授
笹崎 綾野	芸術工学部ファッションデザイン学科	准教授
渡邊 操	芸術工学部ファッションデザイン学科	助教
金沢 香恵	芸術工学部ファッションデザイン学科	准教授
丹羽真由美	芸術工学部ファッションデザイン学科	実習助手
菊池 園	元・芸術工学部ファッションデザイン学科	実習助手
町田 奈実	元・芸術工学部ファッションデザイン学科	実習助手

Sadako MITERA	Department of Fashion and Textile Design, School of Arts and Design, Professor
Masataka NOGUCHI	Department of Fashion and Textile Design, School of Arts and Design, Professor
Toru SENOU	Department of Fashion and Textile Design, School of Arts and Design, Professor
Shunsaku KOGA	Professor Emeritus
Masae BAMBA	Department of Fashion and Textile Design, School of Arts and Design, Professor
Naomi YOSHIDA	Department of Fashion and Textile Design, School of Arts and Design, Associate Professor
Ayano SASAZAKI	Department of Fashion and Textile Design, School of Arts and Design, Associate Professor
Misao WATANABE	Department of Fashion and Textile Design, School of Arts and Design, Assistant Professor
Kae KANAZAWA	Department of Fashion and Textile Design, School of Arts and Design, Associate Professor
Mayumi NIWA	Department of Fashion and Textile Design, School of Arts and Design, Assistant
Sono KIKUCHI	Department of Fashion and Textile Design, School of Arts and Design, Former Assistant
Nami MACHIDA	Department of Fashion and Textile Design, School of Arts and Design, Former Assistant

要旨

現在、世界で高齢化が進む中、中華人民共和国（以下、中国と称す。）は、2010年に65歳以上の高齢人口が1億人を超える世界で唯一の国となった。さらに、短期間で高齢社会に突入する中、その対応策が急務となる。本研究の目的は、中国のファッションデザイン教育において、高齢社会に対応するデザイン手法が確立されていない現状に対し、「ユニバーサルファッション—国籍や年齢、障害の有無に関わらず、誰もが快適な衣生活を送るデザイン手法」を、教育カリキュラムとして普及し確立することにある。2016年から本学ファッションデザイン学科と中国上海視覚芸術学院ファッションデザイン学部間で学術交流が始まった。そして2017年、本学は、第12回アート&デザイン教育国際サミットフォーラム、第3回上海中高年齢時尚服飾国際会議、高齢社会に向けてのファッションショーへ参画した。高齢社会は国境を超えての世界的な課題であり、ファッションデザイン分野で解決し推進していくことが重要であると共有認識された。2017年11月、両大学の学長面談が行われ、今後の教育・研究・活動に関しての協力体制が約束された。両大学間の取り組みは、始まったばかりではあるが、ファッションデザイン学術交流を深めながら、ユニバーサルファッションの意義と役割を見い出していきたい。

Summary

The People's Republic of China (hereinafter referred to as China) has become the only country in the world with a 65 and older population in excess of 100 million in 2010. As we enter into a aged/aging society within a relatively short period of time, it is important that efforts be made to deal with the effects. Against China's fashion design education, The objective of this study is to spread and establish a curriculum based on the concept of "Universal Fashion: a design method focused on designing comfortable clothing for everyone, regardless of nationality, age, or ability". Academic exchanges began between the Fashion Design Department of our university and the Shanghai Institute of Visual Arts, School of Fashion Design in 2016. Aging Societies are a global issue which extends beyond national borders; the importance of resolving/ promoting efforts to accommodate these social changes within the fashion design field was collectively acknowledged. Joint university efforts have just begun, but we would like to research the significance and role of universal fashion, while continuing to deepen fashion design academic exchange.

1. 研究の背景と目的

現在、世界で高齢化が進む中、中華人民共和国（以下、中国と称す。）も例外ではない。2010年に中国は、65歳以上の人口が1億1,883万人（8.9%）となり、高齢人口が1億人を越える世界で唯一の国となった。さらに日本と同様、短期間で高齢社会に突入する中、中国政府は、中国を豊かな高齢化国家に発展させるため、一人っ子政策の調整や高齢化によるリスク負担の軽減、シルバー産業を進展させ、新たな経済成長の源として育成することを施策として提言している^{*1}。しかし高齢社会に対応するための調査や研究、デザイン開発は、始まったばかりである。その対策が急務となる中国は、先に高齢社会に入った日本が研究開発した高齢者用のモノや社会の仕組み、教育機関での取り組み等を情報として取り入れ、より良き高齢社会への対応が可能となるよう様々な国際交流を積極的に実施している。本研究の目的は、中国のファッションデザイン教育において、高齢社会に対応するデザイン手法が確立されていない現状に対し、「ユニバーサルファッションー国籍や年齢、障害の有無に関わらず誰もが快適な衣生活を送れるデザインの手法ー」を、中国の教育カリキュラムとして普及し確立することである。本報告では、2016年から本学ファッションデザイン学科と中国の上海視覚芸術学院ファッションデザイン学部との間で継続しているデザイン教育の交流に関して報告し、日本・中国のファッションデザイン学術交流にみるユニバーサルファッションの意義と役割について考察する。

2. 上海視覚芸術学院の概要

上海視覚芸術学院は、2005年に中国上海で創立されたデザイン&アートを専門とする大学である。学生数は約4,000名、9学部（デザイン、ファッションデザイン、ニューメディアアート、美術、パフォーマンスアート、文化創造工業マネジメント、基礎教育、保存修復、音楽）を有

し、国内外から研究者やアーティスト、産業界のCEOや技術者を招き、講義や技術指導、国際交流や連携事業等を積極的に行っている。また、上海視覚芸術学院は、高齢社会に向けて、2014年、学内に上海中高齢時尚服飾研究中心を設置し、高齢者の快適な衣服設計のための調査研究に着手し始めた^{*2}。

3. 上海視覚芸術学院と本学の取り組み

①上海視覚芸術学院の学内見学と市場調査

- ・日時：2016年3月4日、2017年3月12日
- ・場所：上海視覚芸術学院：上海市松江区文翔路2200
- ・内容：上海視覚芸術学院ファッションデザイン学部の特長は、ファッションモデルコースが設置されていること、中国における株式会社島精機製作所（コンピュータ横編機、デザインシステム、ホールガーメントなどの開発、製造、販売）の拠点が学内にあり、授業の一環として編地やデザイン開発がなされ、産学連携のカリキュラムが組み立てられていることがあげられる。また、高齢者の快適な衣服設計を調査研究する上海中高齢時尚服飾研究中心が2014年に設立され、高齢社会に向けての国際シンポジウムやファッションショーなどを行っている。今回は、ファッションデザイン学部長李柯玲先生と教員との面談を見寺・丹羽が行い、「ユニバーサルファッション」についての説明を行い、賛同を得た。そしてファッションデザイン学部の学生たちに、日本の高齢社会の実情と「ユニバーサルファッション」に関する講義、「神様たちの街」（2016年）の上映を行った^{*3}。通訳は本学卒業生のセンキンが担当した。教員や学生たちは、はじめて聞く、見る授業内容に興味を持った。今後の研究活動に繋がることを期待したい（写真1.2）。



写真 1.2 授業の様子

② 中国軽紡城東市場交易への視察

- ・日時：2016年3月5日
- ・内容：中国軽紡城東市場交易は、上海で最も規模が大きいテキスタイル市場である。生地から服飾雑貨まで、幅広く品揃えしており、日本の価格よりはるかに安価で販売されていた(写真3.4)。



写真3 中国軽紡城東市場交易



写真4 中国軽紡城東市場交易の店内

③ 第12回アート&デザイン教育国際サミットフォーラムへの参加

- ・日時：2017年9月3日
- ・場所：上海視覚芸術学院
- ・内容：会議のテーマは「対立と融合」。急激に変化している社会において、異なる観念や方法、テクノロジーとテクニック、素材、メディア、コンテンツなどが混在し対立している。それら(多分野)の対立を融合することで、全く異なる新しい要素が生まれ、勢いある新しい発展が期待できる。海外の大学と、芸術とデザイン教育の発展について、

発表し意見交換を行った(写真5)。

本学は、「これからの社会における芸術工学教育の可能性と意義—未来の才能を発見し、未来の才能を開花させる—」をテーマに、見寺が講演を行った(写真5)。



写真5 サミットでの発表

その後、ファッションデザイン学部分科会で笹崎が、「片麻痺者の体型特性に適合した衣服形態要素の抽出」を発表し、教員と意見交換を行った(写真6)。



写真6 講義の様子

④ 第3回上海中高齢時尚服飾国際会議への参加

- ・日時：2017年10月27日
- ・場所：上海視覚芸術学院
- ・内容：ユニバーサルファッション—より多くの人へ快適な衣生活を—をテーマに、講演を行った(写真7)。また、本学科のパンフレットを中国語で制作し、本学科のカリキュラム内容の普及啓発を行った(写真8)。



写真7 発表の様子



写真8 学科紹介パンフレット(製作:吉田尚美)

⑤ 高齢社会に向けてのファッションショー

- ・日時: 2017年10月27日
- ・場所: 酔白池 (上海市松江区人民南路64号)
- ・内容: 本学の作品は、継承したい日本古来の伝統技法を現代に(日本の良きもの)、快適性や機能性を大切に(着心地)、誰もが簡単に制作できる衣服設計技法(着やすさ)などユニバーサルファッションを視点に、各専門分野から作品を提案した(写真9~19)。



写真9 ファッションショー準備の様子

◎ 「minamo-水面」

ばんば まさえ

水面にきらきら映る光、揺らめき移ろいゆく色をイメージして制作した。正方形のシルクオーガンジーを螺旋状に縫い絞って染色したオリジナルテクニックのストール。絞りのねじれを開いてできる立体的な形の変化と透ける色の重なり。ワンピースは伸縮性のある素材を用いた着心地の良いAライン。少し光沢のあるダークグレーは様々な場面で使える。(ワンピースデザイン・制作 町田奈実)(写真10.11)。



写真 10.11 作品

◎ 「alternation」

金沢 香恵/渡邊 操

テキスタイルデザインを渡邊操、ファッションデザインを金沢香恵が考えた共同作品。テキスタイルのテーマは日本の四季の一つ「春」をテーマに布地のデザインをした。ひとつは菜の花畑を表し、もうひとつは春の喜びを表した。布地は先染織物の産地で有名な兵庫県西脇市で織られている。和装の仕組みを洋服に用い、マタニティにも対応するデザインを提案した(写真12.13)。



写真 12.13 作品

◎「藍を着るといふこと」

坂本 大熙

ファッションは常に新しさを産み出して人に感動を与えるポジティブな産業である。その一方で、生産環境や人々の心身の健康に必ずしも良い産業であるとは言えない。私は、有り余る古着と日本古来の技法である藍染を用いて、人の心身に良い影響を与えるファッションを提案する(写真 14)。



写真 14 作品

◎「ユニバーサルファッション」

見寺 貞子/笹崎 綾野/韓 先林/鈴木 徹

私たちは、高齢者や障害者の体型特性や志向に配慮した衣服デザインや設計技法の研究を行ってきた。そして直線裁ちの着物をリメイクした簡易な型紙制作による衣服設計理論を導き出した。日本の気候に適応し、日本の文化も大切にしながらファッション性と機能性を併せもつユニバーサルファッションを提案する(写真 15. 16. 17. 18)。デ

ザインを見寺貞子、笹崎綾野、制作を韓先林、反射材素材を使用した靴のデザインは鈴木徹(写真 17)。



写真 15 作品



写真 16 作品



写真 17 作品



写真 18 作品



写真 19 日中高齢社会ファッションショーフィナーレ

◎「纏うアクセサリ」

丹羽 真由美

「和」をテーマに伝統色の「金・銀」を使用したアクセサリを製作した。気持ちの豊かさを表す「金」、他色との調和性の高い「銀」を使用することで存在感ある雅やかな

印象を与える。素材には身を守る反射や蓄光作用のあるものを使用した(写真 17. 18)。

まとめ

本研究は「ユニバーサルファッション」を、中国のファッションデザイン分野及びデザイン教育に普及啓発し、カリキュラムとして確立することを目的としている。2016年からの上海視覚芸術学院との取り組みの中で、高齢者・障害者を対象とした調査や研究、デザイン活動を、教員との交流、学生への授業、酔白池での高齢社会に向けてのファッションショーなどを実施してきた。中国のファッションデザイン教育は、健常者や若者を対象としたカリキュラム内容であり、今後の高齢社会に対応できる教育内容とはいえない。しかし、李学部長を中心とした教員は、高齢社会への対応策が早急に必要であり、カリキュラムとして確立することは必要であると考えている。2017年11月15日、上海視覚芸術学院周斌学長と李柯玲ファッションデザイン学部長、教員2名が本学を訪問された。学長との懇談会を持ち今後の協力を望まれた。高齢社会は国を超えての課題であり、ファッションデザイン分野で解決していくことが私たちの課題である。取り組みは、始まったばかりではあるが、交流を深めながら解決策に繋げていきたい(写真 20. 21)。

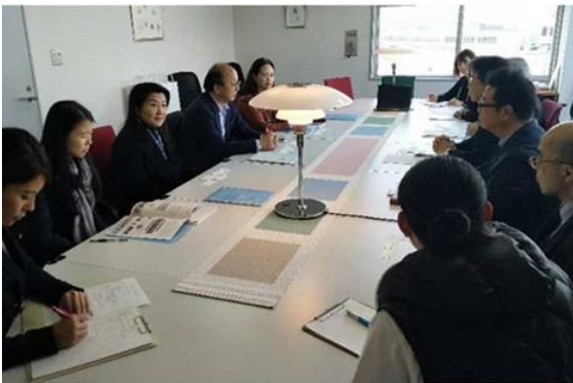


写真 20 本学と上海視覚芸術学院との面談



写真 21 本学と上海視覚芸術学院のメンバー

参考資料

※1 内閣府経済社会総合研究所、「平成 23 年度国際共同研究プロジェクト 中国の人口高齢化-進行の趨勢、経済への影響及び対策-」、

http://www.esri.go.jp/jp/prj/int_prj/2011/prj2011_01_you ten.pdf

※2 中国上海視覚芸術学院、<http://www.siva.edu.cn/>

※3 「神様たちの街」、<http://kamisamaga.com/>

(最終閲覧日：2018. 07. 01)